

平成 29 年度 鹿児島県がん診療連携協議会 議事要旨

開催日時：平成 29 年 10 月 24 日（火）15:30～16:30.

開催場所：管理棟 4 階第一会議室

I. 開会挨拶

上野鹿児島大学病院腫瘍センター長から、別紙出席者一覧により出席者照会があり、本日の協議会開催に向けて挨拶があった。

引き続き、鹿児島県保健福祉部健康増進課がん対策・歯科保健係の馬場係長より、挨拶があった。

II. 議 題

1. 平成 29 年度都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会の報告

上野委員長及び各部門より資料に基づき説明があった。

「がん登録部会からの報告」については、1. 院内がん登録全国データ利用規約の変更、2. 院内がん登録の各種集計報告、3. 院内がん登録のデータ収集と日程、4. QI 研究の進捗・日程の報告があった。さらに、1と2については、40歳未満のがん対策を目的とした集計データの共有、相対生存率の集計に係る今後の方針等について補足説明があった。

「情報提供・相談支援部会からの報告」については、第3期がん対策推進基本計画として、科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実、患者本位のがん医療の実現、尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築の3つを目標に掲げたこと、また、目標達成への取り組むべき施策として、がん相談支援の周知、がん相談支援センターの質の向上と相談員の質の確保、不適切情報の監視・注意喚起、就労支援・自殺防止等を取り上げていることの報告があった。

「緩和ケア部会からの報告」については、緩和ケアチームの取り組みでの課題として、質の評価指標、評価に対応するマンパワーの不足、評価に繋がる情報収集があり、施設全体の取り組みでの課題として、苦痛のスクリーニングの問題、外来患者の管理体制が取り上げられていることの報告があった。また、緩和ケアチームの今後の活動改善の取り組みとして、緩和ケアチームの登録、セルフチェックプログラム、ピアレビューの実施等について説明があった。

引き続き、上野委員長から、以下の報告があった。

- ・「臨床研究部会からの報告」については、CRC 教育のポータルサイトを立ち上げ、カリキュラム、シラバスをワーキングから始めることとし、CRC を育てるセミナーや研修会の開催、CRC 教育ポータルサイトでのがん臨床試験に関する質問の受付実施について説明があった。
- ・「都道府県におけるがん診療の質の向上を目指した研修の企画・開催」については、当該都道府県においてがん医療に携わる専門的な知識及び技能を有する医師・薬剤師・看護師等を対象とした研修を実施することが要件となっていることの説明があった。
- ・「都道府県レベルでのがん診療の質の向上を目指した PDCA サイクル確保の取り組み」については、研修等がいかにか反映されているかを検証する体制として取り組んでおり、毎年 PDCA サイクルフォーラムが開催されている。昨年度は、鹿児島県もその取り組みを発表しており、先進

的に実施していると思っているとの説明があった。

- ・「第3期がん対策推進基本計画(案)」を踏まえた、今後のがん診療連携拠点病院が担っていくべき役割についての討議については、現時点でも討議が継続されており、今後は、専門的な医療を提供する拠点病院とそれ以外の拠点病院との機能分化、専門性の高い拠点病院への医療資源の集約化と他医療機関との連携、適切な相互評価、PDCAサイクルの確保、事務体制の整備等が必要になることの説明があった。

2. 鹿児島県がん診療連携協議会各部門からの報告

がん相談・連携部門からの報告について、川窪MSWから、「平成29年度がん相談部門活動計画」の資料を基に、鹿児島県全体目標として、県民に対しがん相談支援センターの役割・機能について周知を図る、がん相談員のスキルアップと質維持を図ることをあげたことの報告があった。また、それに伴うグループ毎の活動として、以下の報告があった。

- ・研修企画班は、年3回研修を企画・実施し相談員のスキルアップを図り、相談員の連携強化を目的として相談員サロンを年4回開催している。
- ・活動評価班は、取り組みについてアンケートを実施し、特に周知状況を調査している。
- ・情報誌作成班は、昨年度鹿児島県がんサポートブックをデータ化し、今年度初稿版を完成・配布予定である。
- ・広報・周知班は、地域に出向き、イベント会場にてがん相談広報活動を計画・実施している。

がん緩和ケア部門の報告について、満留ジェネラルマネージャーから、緩和ケアにおいて、質の充実が求められており、緩和ケアチームの登録、セルフチェックプログラム、ピアレビューの取り組みを行っていくことの報告があった。また、11月28日には国立がん研究センター、京都大学等から医師や看護師を招いて、鹿児島県として初めてピアレビューを実施する予定であり、現場の困りごとを中心に具体的な課題解決に向けた話し合いを通して、臨床活動の改善を目的としていることの追加説明があった。

がん診療企画部門の報告について、鈴木部門長から、ゲノム医療についての説明があり、8月26日開催の4部門合同研修会において、北海道がんセンター がんゲノム医療センター長西原先生の講演があり、先進医療から保険収載を見込んで進んでいく予定であり、今後、本院でも実装出来るように準備を進めていきたい旨、報告があった。

がん登録部門の報告について、中筋診療情報管理士から、2015年鹿児島県院内がん登録データ報告、初回治療症例数の年次推移(2014~2015年)報告、平成28年度県がん登録部門研修会実施状況、平成29年度県がん登録部門研修会実施予定、鹿児島大学病院がん登録部門における取り組みの報告があった。

引き続き、村永部門長から、2008~2009年の予後調査について公表がされたが、生存状況把握率90%以上の判明率のみの公表とされ、鹿児島県は鹿児島大学病院も含め追跡調査出来ない状況で、公表の条件に満たなかったことの報告があった。今後、鹿児島大学病院では、がんデータ精

度管理委員会を立ち上げ、精度を上げるための方法を検討し、「がん等を含む難病撲滅を目的とした調査へのご協力のお願い」を作成し、今後院内の会議等で決議した後、以下のとおり県内の協力を求めることとしていることの説明があった。

鹿児島大学病院は、個人情報保護法第17条2項「要配慮個人情報の取得」の適用除外となるが、一般の医療機関においては、一つの主体と見なすことができる共同研究を行う機関が存在すれば、その協議会に所属していることを明記することによって学術研究を行うことが可能となるので、是非、この協議会を活用し、鹿児島県として各病院間で患者さんの予後情報が正当に活用できるような環境整備にご協力をお願いするものであること。

Ⅲ. その他

上野委員長から、私の手帳の乳がんパスについて、今回改訂を行ったので、今後使用していただいて、来年その報告をお願いする旨の説明があった。

Ⅳ. 閉会挨拶

鹿児島大学病院腫瘍センター 鈴木副センター長から、閉会の挨拶があった。

終了